



例文法

～例文からの文法理解で今日から英語が話せます～

著者：ジョバンニ

こんな方に向けて

本書はこんな方に向けて作成しました。

1. わかりやすく文法を学びたい。
2. 文法の知識をちゃんと会話で使えるようになりたい。
3. 正しい文法の勉強方法が知りたい。

本書には「文法はなんとなく知っている」「英会話は単語だけでなんとか話せる」という状態だった筆者が、例文で文法を理解することによって、英語がスラスラ話せるようになった経験を基に、そのメソッドを全て公開します。

本書を読めば、わかりやすく文法が理解できることはもちろん、正しい英会話の勉強法まで理解していただけます。特に、英語初学者の方に読んでもらえると幸いです。

はじめに

- 日本人が英語を話せない理由

英語を話したいと思って文法を学んでも、挫折してしまった経験はありませんか？日本人が英語を話せない理由には、最初に文法を完璧にしようとするが故に、途中で挫折してしまうということが多いです。また、文法理解に徹してしまい、英会話で使う練習をおろそかにしていることも多いです。

- 例外は捨てる

文法を完璧にしようとする、例外も全て覚えなくてはなりません。しかし、私たち日本人がやるべきことは、例外を覚える前に、まずは基本の形を使えるようにすることです。受験英語は例外ばかり出てくるので、学校教育を受けてきた私たち日本人が、例外を覚える癖をつけてしまっているのは仕方ないです。でも、英語を話せるようになりたい私たちは、まずは例外を捨てなければなりません。

- 一般的な教材は解説ばかり

一般的な教材は、幅広い英語学習者の方に読んでもらうために、基礎から応用まで解説しているものが多いです。そのせいで、初心者の方は「あれもこれも覚えなといけない」と思い、基礎すらもわからなくなってしまう。

そのため、本書では、「絶対にここは欠かせないよね」というポイントを絞っています。本書をやり終えた上で、新しく文法の壁にぶつかったら、その時に新しい知識を付け足してってください。

本書のコンセプト

- 全文法を網羅していない
すでに文法を学んでいる人からすると「他にもこんな訳もあるよ！」などというご意見もあると思います。
しかし、本書は完全初心者向けに、まずはこれだけは押さえておこう！というポイントを絞っています。（それでも100ページ近くになるので、最初から何百ページに渡って文章がぎっしり詰まっている文法書をやるのがどれだけ大変かわかりただけかと思います。）
- 理解よりも「練習」がメイン
英語が話せるようになるためには「理解と練習」が必要です。受験では、理解をしていれば問題を解けますが、実践の英会話では、それを使えないといけません。
英会話はスポーツと同じです。例えばテニスでは、サーブの打ち方を理解しただけでは、サーブを打てるようになりません。何度もサーブ練習をする必要があります。英会話も同じように、文法の理解とそれを使う練習をしなければなりません。
そこで、一般的な教材は解説（＝理解）がメインですが、本書では例文を使った練習をメインに構成しています。

本書の使い方

- 本書の使い方4ステップ

- ① 先に例文を覚える
- ② 訳は軽く確認するだけ
- ③ 解説を見て理解する
- ④ 例文をもう1回見て、単語を置き換えてみる

- 先に例文を覚える

本書には、同じ文法を使った例文を複数載せています。例文を最初に覚えてしまえば、自然と口から正しい文法が出てくるようになります。解説を読んで理解するのはその後で大丈夫です。この流れで練習すれば、理解した文法を忘れないだけではなく、その文法を使えるようになります。

まずは、この例文を10回ずつ「声に出して」読んでください。目安としては最初の3回は例文を見ながら音読し、4回目からは見ないで声に出してみてください。思い出せなかったらチラ見をして、スラスラ言えるまで繰り返してください。10回は目安なので、文の長さや自分の暗記力にあわせて調整してください。

注意としては、必ず「声に出して」ください。何度も言いますが、話せるようになるには、話す練習をしないといけません。10回は暗記するためだけではなく、体に定着させる目的もあるので、暗記は完璧じゃなくても大丈夫です。

- 訳は軽く確認するだけ

文法の練習に集中できるように、単語は中学生レベルのものを使用しています。そのため、なるべく訳を見なくても理解できるような例文にしています。

日本語訳はあくまでも「例文練習の補佐」として載せています。英語を話すために、キレイな日本語で訳す必要はありません。訳は軽く確認する程度にしてください。

- 解説を見て理解する

注意として、最初に解説は見ないでください。例文を練習してから、解説を

見ると「なるほど！」と思えると思います。最初に解説を見ると、その感動がないので、記憶に定着できなくなります。例文を強烈に記憶に定着させるために必要不可欠だと思ってください。

また、日本語訳と同じで、解説も必要最小限にしています。メインは「例文を練習すること」なので、解説だけ見て満足しないようにしてください。

- 例文をもう1回見て、単語を置き換えてみる

解説で「なるほど！」と感動が得られたら、また例文に戻りましょう。その時に、ぜひトライしてみてください。ぜひ、「単語の置き換え練習」です。

例えば、parkという単語が例文にあれば、houseやstationに変えてみる。himをherやyouに変えてみる程度で構いません。自分で文章を作る練習になるので、暗記とは異なる「英文を作る能力」が身につきます。

- ぜひ楽しんでください！

それでは、本書を活用して練習をしてみてください。英語の勉強はつまらないかもしれませんが、英会話の練習は楽しいです。スポーツと同じで、やればやるだけ上達します。上達を感じると、練習がだんだん楽しくなってきます。

本書を通じて、一人でも多くの英語学習に悩んでいる人の、悩みが解決できたら幸いです。本書の途中には「息抜きコラム」も用意しています。筆者がいかに遠回りして英語を勉強してきたのか赤裸々に書いています。ぜひ楽しみながら読んでください。では、また後ほどお会いしましょう。

こんな方に向けて	1
はじめに	2
本書のコンセプト	3
本書の使い方	4
文型	9
第1文型	9
自動詞と他動詞	10
副詞	11
副詞：頻度	12
第2文型：基本	13
第2文型：後ろに形容詞	14
第4文型：give型	15
第4文型：buy型	16
第5文型	17
「言う」系動詞	18
時制	19
現在形と現在進行形	19
未来形	20
過去進行形と未来進行形	21
息抜きコラム	22
はじめまして、ジョバンニです。	22
例文を10回も音読しないとダメなのか	22
助動詞	22
can	23
could	24
may	25
must	26
should	27
would	28
助動詞の依頼表現	29
助動詞の過去形	30
現在完了	31
完了用法	31
経験用法	32
継続用法	33
完了進行形	34

受動態	35
受動態の基本	35
群動詞の受動態	36
使役動詞	37
動詞＋人＋do	37
動詞＋人＋to do	38
動詞＋人＋to do 2	39
知覚動詞	40
知覚動詞	40
息抜きコラム 2	41
ジョバンニの失敗談	41
勉強法を勉強しないと危ない	41
不定詞	41
名詞的用法	42
It to... 構文 (for)	43
It to... 構文 (of)	44
形容詞的用法	45
副詞的用法：基本	46
副詞的用法：感情の原因	47
too...to 構文	48
タフ構文	49
不定詞と動名詞	50
不定詞の復習	50
動名詞：すでに行っている系	51
動名詞：延期・ネガティブ系	52
動名詞：動き・イメージ系	53
不定詞と動名詞の注意1	54
不定詞と動名詞の注意2	55
to doingの形	56
分詞	57
分詞の基本	57
感情分詞	58
付帯状況 -ing	59
付帯状況のwith	60
息抜きコラム 3	62
ブレイクスルーは突然に	62
諦めたらそこで試合終了です。	63

関係代名詞	64
関係代名詞：主格・目的格	64
関係代名詞：所有格	65
関係代名詞：what	66
関係副詞	67
間接疑問文と関係代名詞	68
間接疑問文と関係副詞	69
複合関係代名詞	70
複合関係副詞	71
同格のthat	72
仮定法	73
仮定法過去	73
仮定法過去完了	74
wishの仮定法	75
仮定法現在：動詞	76
仮定法現在：形容詞	77
比較	77
比較	78
原級比較	79
最上級	80
比較の否定	81
ラテン比較級	82
強調構文	83
形容詞：数量詞	84
each・every	84
all・many	85
most・almost	86
名詞	87
不可算名詞：基本	87
不可算名詞：情報系	88
不可算名詞の注意	89
複数名詞	90
おわりに	91

文型

第1文型

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I live (in Tokyo).
2. I go (to the park).
3. I stayed (at the hotel).
4. I came (to school).

■ 訳（参考程度に。）

1. 東京に住んでいる。
2. 公園に行く。
3. ホテルに泊まった。
4. 学校に来た。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

第1文型とは、「主語＋動詞」だけで完結する文のこと。

例1では”I”が主語、”live”が動詞。この2つで完結できる。

”in Tokyo”のように、（前置詞＋名詞）のカタマリは「副詞句」と言い、つけ足しの感覚で使うため、わかりやすくするため（ ）で囲った。

※第1文型で使う動詞は「自動詞」と言う。一方、visitなどの「他動詞」は、後ろに名詞を置く。（例：I visit the hotel.）

自動詞と他動詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I live (in Tokyo).
2. I go (to the park).
3. I visit the park.
4. I entered the room.

■ 訳（参考程度に。）

1. 東京に住んでいる。
2. 公園に行く。
3. 公園に行く。
4. 部屋に入る。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文1,2のliveやgoは自動詞と言う。

自動詞は、第2文型を作る、自分だけでいい動詞のこと。

（in Tokyo, to the parkはただの付け足し。）

例文3,4のvisitやenterは他動詞と言う。

他動詞は、後ろに「～に」「～を」などの名詞が必要。

例文3では、the park「公園に」、例文4ではthe room「部屋に」となる。

副詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I read the book (slowly).
2. I (often) watch movies.
3. I live (in Tokyo).
4. I slept (at midnight).

■ 訳（参考程度に。）

1. 本を読む（ゆっくりと）。
2. （よく）映画を見る。
3. 住んでいる（東京に）。
4. 寝た（真夜中に）。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

（ ）で囲った単語を副詞と言う。

副詞は場所、時間、頻度など、追加情報を付け足す感覚で使う。

例文3,4は、「副詞句」と言い、（前置詞＋名詞）の2語以上から成る副詞の形。

副詞：頻度

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I always eat snacks.
2. I usually eat snacks
3. I often eat snacks.
4. I sometimes eat snacks.
5. I hardly ever eat snacks.
6. I never eat snacks.

■ 訳（参考程度に。）

1. いつもお菓子を食べている。
2. たいていお菓子を食べている。
3. よくお菓子を食べる。
4. 時々お菓子をたべる。
5. めったにお菓子を食べない。
6. 決してお菓子を食べない。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文は、頻度が高い順番。

often 「しばしば」と訳すが、違和感がある日本語なので「よく」と訳せばOK.

hardly ever 「めったに～ない」は、seldomで覚える人も多いが、seldomはネイティブは使わない。

第2文型：基本

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I am happy.
2. You look happy.
3. You sound happy.
4. I am a boy.
5. You look like a boy.
6. You sound like a boy.

■ 訳（参考程度に。）

1. 嬉しいよ。
2. 嬉しそうだね。（見た目が。）
3. 嬉しそうだね。（声や発言が。）
4. 僕は少年だよ。
5. 君は少年のようだね。（見た目が。）
6. 君は少年のようだね。（声や発言が。）

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文1-6はすべて第2文型と言う。

第2文型は、動詞の後に名詞か形容詞を置いて、主語の状態や性質を説明する文。

例文1-3では、形容詞で「嬉しい」という状態を説明している。

例文4-6では、名詞で「少年」という性質を説明している。

lookは、「～のように見える。」、soundは「～のように聞こえる。」。

つまり、見た感じなのか、声を聞いた感じなのかの違い。

これらにlikeをつけると、その後に名詞が置ける。

第2文型：後ろに形容詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I feel cold.
2. I got angry.
3. The milk went bad.
4. This coffee smells good.
5. This coffee tastes good.

■ 訳（参考程度に。）

1. 寒気がする。
2. 怒った。
3. 牛乳が腐った。
4. このコーヒーは良い匂いがする。
5. このコーヒーは美味しい。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

第2文型になる動詞は限られているので、代表的なもの（feel, get, go, smell, taste）は全て覚える。

これらの動詞は後ろに形容詞を置く。

形容詞は例文の他にも、easy, difficult, hot, small, big, high, low, warmなど、日本語では「優しい」「難しい」など、「い」で終わるものが多い、性質を表すもの。

例文2のgetは感情の変化（happy, sadなど）に使う。

例文3のgoは、badと組み合わせで「悪くなる」=腐る、sourで「酸っぱくなる」などで使う。

第4文型：give型

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'll give you my book.
= I'll give my book to you.
2. I'll lend you my book.
= I'll lend my book to you.
3. I'll send you my book.
= I'll send my book to you.
4. I'll tell you my secret.
= I'll tell my secret to you.
5. I'll teach you English.
= I'll teach English to you

■ 訳（参考程度に。）

1. 君に本をあげるよ。
2. 君に本を貸すよ。
3. 君に本を送るよ。
4. 君に秘密を言うよ。
5. 君に英語を教えるよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

第4文型は、[動詞+人+物]の形。「人に物をあげる。」という訳。
この時、toなどの前置詞はつかない。

順番を変えて、[give+物+to+人]に言い換えることができる。
どちらの言い方もよく使う。

※第4文型になる動詞は限られているので、例文は全て暗記すること。

第4文型：buy型

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'll buy you some beer.
= I'll buy some beer for you.
2. I'll get you some beer.
= I'll get some beer for you.
3. I'll cook you dinner.
= I'll cook dinner for you.
4. I'll make you dinner.
= I'll make dinner for you.
5. I'll find you a new house.
= I'll find a new house for you.

■ 訳（参考程度に。）

1. 君にビールを買うよ。
2. 君のためにビールをもらうよ。
3. 君に夕食を作るよ。
4. 君に夕食を作るよ。
5. 君に家を見つけるよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

第4文型にはgive型とbuy型がある。

give型は順番を入れ替えると”to”がついたが、buy型は入れ替えると”for”がつく。

give型とbuy型の違いは、一人でできるかどうか。

一人でできることはbuy型。

第5文型

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I named my dog Pochi.
2. I call my dog Pochi.
3. I left the window closed.
4. I kept the window closed.
5. I found the window closed.

■ 訳（参考程度に。）

1. うち犬をポチと名付けた。
2. うちの犬をポチと呼んでいる。
3. 窓を閉まっているままにした。
4. 窓を閉まっているままにした。
5. 窓が閉まっているとわかった。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

第5文型は、「動詞+O+C」の形。

※Oは目的語「～を」にあたる単語。人や物などの名詞が入る。

※Cは補語と言い、Oとイコールになる単語（名詞か形容詞）が入る。例文では、犬＝ポチという関係。

例文3,4のleave (left) と、keep (kept) の違いは、意図的かどうか。

keepはわざと「～したままにする」という感覚。leaveは放っておく感覚。

findは第5文型だと「わかる」という訳になる。

findは第4文型の形にもなったが、その時の訳は「見つける」。

「言う」系動詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'll talk to you about the plan.
2. I'll speak to you about the plan.
I speak English.
3. I said no to him.
Please say hello to him.
4. I'll tell you my secret.

■ 訳（参考程度に。）

1. 計画について話すよ。
2. 計画について話すよ。
英語を話すよ。
3. 彼に「ノー」と言ったよ。
彼によろしくね。
4. 秘密を話すよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

言う系動詞＝talk、speak、say、tellのこと。

これらは、意味の違いを覚えるのではなく、例文で使い方を覚える。

例文1：[talk to 人 about 内容] という形。speakも同じ。

例文2：speakは言語を後ろに置くことができる。

例文3：sayのあとは内容。

例文4：tellは第4文型。（tell＋人＋物）

時制

現在形と現在進行形

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I play tennis every day.
2. I'm playing tennis now.

■ 訳（参考程度に。）

1. 毎日テニスするよ。
2. 今テニスをしているよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

現在形は、動詞の原形（元の形のこと）を使う。

現在形は「今」じゃなくて、「いつも・普段」やること。

現在形という名前に惑わされないように。

現在進行形はbe動詞+-ing、まさに「今」やっていること。

※be動詞は、is, am, areなど。

未来形

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'm going to travel next week.
2. I'm not going to travel next week.
3. Are you going to travel next week?

■ 訳（参考程度に。）

1. 来週旅行に行くよ。
2. 来週旅行に行かないよ。
3. 来週旅行に行くの？

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

未来を表す表現は [be going to] 。

会話では”going to”を省略して”gonna”と言うことが多い。

初心者のうちは、助動詞”will”との違いはあまり意識しなくていいが
willは「今」決めたこと。be going toはすでに決めていたことという違いがある。

例1を I will travel next week.にすると「よし、来週旅行に行こう。」というニュアンスになる。

過去進行形と未来進行形

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I was watching a movie when my dad came.
2. I'll be watching a movie when my dad comes.
3. I'll be watching a movie in ten minutes.

■ 訳（参考程度に。）

1. お父さんが来たとき、映画を見ていたよ。
2. お父さんが来るとき、映画を見ているよ。
3. 10分後には映画を見ているよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

過去進行形は [be動詞の過去形（was, wereなど）+ -ing]

未来進行形は [will be + -ing] で表す。

過去・未来進行形は、when「～しているとき」と一緒に使うことが多い。

※例文3のように、whenがない形もある。

息抜きコラム

練習ばかりだと脳が疲れてしまうので、息抜きのためのコラムを用意しています。筆者 ジョバンニの失敗談、どうやって英語が話せるようになったのか、英語学習のノウハウなどを掲載しています。リラックスしていただくと幸いです。

はじめまして、ジョバンニです。

改めまして、本書「例文法」を作成したジョバンニと申します。1987年生まれ、札幌出身です。海外留学経験はありません。28歳で初めて海外旅行を経験し、それから英語を勉強し始めました。遅咲きの人間です。

働きながら隙間時間で英語を勉強して、日本にいながら英語が話せるようになりました。今では、前職を退職し、英会話講師をしています。そのため、私と同じように忙しい日々の中でも、英語学習を頑張っている方のお力になれると思います。

本書を読んでご不明な点があれば、Twitter【@eigomeister】まで、いつでもDMをください。また、オンライン英会話スクール（開校予定）では、本書を使ったレッスンも行います。興味のある方はぜひお問い合わせください。

例文を10回も音読しないとダメなのか

さて、本書のコンセプトの一つ「例文を10回音読すること」について詳しく解説させていただきます。10回音読する理由は2つあります。1つは例文を覚えることです。そしてもう1つが、考えなくても自然と口から出てくるようにするためです。

実際のコミュニケーションでは、「『私』が”I”で、『です』は”am”で…」と頭の中で日本語から英語に翻訳している時間はありません。そのため、日本語を間に挟まなくても、考えたことが自然と英語のまま出てくるようにする必要があります。（例えば”Thank you.”は自然と出てきますよね。）

逆に言うと、「10回も音読しなくても例文のような文章は自然と出てくる」ということであれば、回数は少なくとも大丈夫です。ただ、ここまで練習してきた方はわかるかと思いますが、意外と10回はすぐ言えてしまいます。英語をたくさん話すことに慣れるのも大事な要素です。

助動詞

can

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. You can do it.
2. It can be true.
3. It can be possible.

■ 訳（参考程度に。）

1. 君はそれができる。
君はそれをしても良いよ。
君がそれをすることはあり得るね。
2. それは本当かもね。
3. それは可能かもね。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

canをはじめ、may,must,shouldなどを助動詞という。

助動詞は気持ちを伝えるための単語。

そのため、微妙なニュアンスの違いにより、日本語だといろいろな訳になる。

そこで、助動詞はイメージで覚えるのがベスト。

canのイメージは「ポテンシャル」。

ポテンシャルがあるというイメージを日本語に訳すと「できる」「しても良い」「あり得る」「かもしれない」となる。

could

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I could play the guitar.
2. I could do it, but I don't.
3. It could be true.

■ 訳（参考程度に。）

1. ギターが弾けた。
2. それできるよ、でもしないよ。
3. それは本当かもね。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

couldはcanの過去形で「できた」と訳す。

ただし、例2のように、現在形でも使える。

canとの違いは、canは「できるし、やる。」という時に使うが、couldは「やろうと思えばできる。（やるかはわからない。）」というニュアンス。

例文3のように、can be 「～かもしれない」と同じ訳もある。

canとの違いは、could beの方が可能性が薄いニュアンス。

may

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. You may stay here.
2. It may be true.
3. It might be true.

■ 訳（参考程度に。）

1. ここにいてもいいよ。
2. それは本当かもね。
3. それは本当かもね。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

mayのイメージは「半々」。

訳は「～してもいい」「～かも」の2つ。

半々なので、

例文1は「いてもいい。（いなくてもいい。）」

例文2は「本当かも。（嘘かも。）」となる。

また、mayで「～してもいい」という訳のときは、上から目線のイメージがあることに注意。

例文3はmayの過去形might。

「～かも」という訳だが、mayよりも可能性が低い。
can, couldと同じ意味。

must

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. You must stay here.
2. You have to stay here.
3. It must be true.

■ 訳（参考程度に。）

1. ここにいなさい。
2. ここにいた方がよいよ。
3. それは本当に違いない。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

mustのイメージは「圧力がある」。

mustの訳は「～しなければならない」「～に違いない」の2つ。

圧力があるから、

例文1は、強制的な「～しなければならない、～しなさい」という意味。

例文3では、周りの状況から考えて、結論が圧力に押し出されて「本当と考えざるを得ない」→「本当に違いない。」となる。

また、must=have toと言われるが、実際は例文2のようにhave to「～した方がよい」という柔らかい表現になる。

should

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. You should study.
2. It should be true.
3. He should be here.

■ 訳（参考程度に。）

1. 勉強するべきだよ。
2. それは本当のはず。
3. 彼はここにいるべきだよ。
彼はここにいるはずだよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

shouldのイメージは「本来」。

訳は「～すべき」「～のはず」の2つです。

例1は、本来だったら勉強した方が良いと思っているので「勉強するべき」。

例2は、本来だったら本当だと思っているから「本当のはず」となる。

「～すべき」「～のはず」のどちらの訳になるかは文脈で決まる。

そのため、例4のように、前後に文がないと、どちらの意味にもなり得る。

would

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I would go shopping.
2. I would rather go home.
3. I would rather not go home.

■ 訳（参考程度に。）

1. よくショッピングしてたよ。
2. むしろ家にいたい。
3. むしろ家にいたくない。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

wouldは「昔によく～していた」という訳。

would ratherは「むしろ～したい」という意味。
まとめて一つの単語として捉えるといい。

助動詞の依頼表現

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Can you help me?
2. Will you help me?
3. Could you help me?
4. Would you help me?
5. Would you mind helping me?

■ 訳（参考程度に。）

1. 手伝ってくれない？
2. 手伝ってくれないかな？
3. 手伝ってくませんか？
4. 手伝っていただけませんか？
5. 手伝っていただくことはできますか？

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

can, could, will, wouldでお願いする表現ができる。

現在形（can、will）よりも、過去形（could、would）の方が丁寧な表現。

文字数が多くなるほど丁寧になる。

助動詞の過去形

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. You should have done it.
2. He may have done it.
He might have done it.
He could have done it.
3. He must have done it.

■ 訳（参考程度に。）

1. 君はそれをするべきだったのに。
2. 彼はそれをしたかもしれない。
3. 彼はそれをしたに違いない。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

助動詞を使って過去を表現するときは、
[助動詞+have+過去分詞] の形になる。

※過去分詞は動詞の変化の3番目（do-did-done、go-went-goneなど）のこと。

例2、mightとcouldは過去形なので、mayよりも可能性が低いときに使う。

現在完了

完了用法

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I've just eaten dinner.
2. I've already eaten dinner.
3. I haven't eaten dinner yet.
4. Have you eaten dinner yet?

■ 訳（参考程度に。）

1. ちょうど夕食食べたよ。
2. もう夕食食べたよ。
3. まだ夕食食べてないよ。
4. もう夕食食べた？

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

[have+過去分詞] で「もう～したよ。」「ちょうど～したよ。」と、完了したことを話せる。

過去分詞は、動詞の変化の3番目のやつ。

get-got-gotten, eat-ate-eatenなど。

例文1,2：肯定文は”just”か”already”がつく。

例文3,4：否定文・疑問文は”yet”がつく。

経験用法

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I've been to England twice.
2. I've never been to England.
3. Have you ever been to England?

■ 訳（参考程度に。）

1. イングランドに2回行ったことがあるよ。
2. 今までイングランドに行ったことないよ。
3. 今までイングランドに行ったことがある？

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

[have been to...] の「～に行ったことがある。」はよく使う形。

once, twice, three times, four timesなど、回数をつけられる。

例文2：否定文はnever「今まで～ない」をつける。

例文3：疑問文はever「今まで～？」をつける。

継続用法

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I've known him since 2010.
2. I've known him for five years.
3. How long have you known him?

4. I've been in Sapporo since 2010.
5. I've been in Sapporo for five years.
6. How long have you been in Sapporo?

■ 訳（参考程度に。）

1. 彼を知っているよ、2010年から。
2. 彼を知っているよ、5年間。
3. どれくらい彼を知ってるの？

4. 札幌にいるよ、2010年から。
5. 札幌にいるよ、5年間。
6. どれくらい札幌にいるの？

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

[have+過去分詞] に、since 「～から」 やfor 「～の間」 をつけると、「ずっと～している」という継続用法になる。

例文4-6の”been”はbeの過去分詞（変化の3番目）で「いる」という訳になる。

完了進行形

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I've been studying English since 2010.
2. I've been studying English for five years.

■ 訳（参考程度に。）

1. ずっと英語を勉強しているよ、2010年から。
2. ずっと英語を勉強しているよ、5年間。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

完了進行形はhave been -ingの形。訳は「ずっと～している。」

継続用法と似ているが、完了進行形は「これからもやる」イメージがある。

受動態

受動態の基本

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. He was scolded.
2. He is being scolded.
3. He has been scolded.

4. Those stores were built.
5. Those stores are being built.
6. Those stores have been built.

■ 訳（参考程度に。）

1. 彼は怒られた
2. 彼は怒られている。
3. 彼はずっと怒られている。

4. あれらの店は建てられた。
5. あれらの店は建てられている。
6. あれらの店はずっと建てられている。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

受動態は [be動詞＋過去分詞] の形。訳は「～される。」

例1,4の [be動詞の過去形＋過去分詞] は「～された。」

例2,5の [現在進行形＋過去分詞] は「～されている。」

例3,6の [現在完了＋過去分詞] は「ずっと～されている。」

群動詞の受動態

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I was laughed at by my friend.
2. I was looked at by my friend.
3. I was looked down on by my co-worker.
4. I was looked up to by my-co-worker.
5. I was looked after by my parents.
6. I was taken care of by my parents.

■ 訳（参考程度に。）

1. 友達に笑われた。
2. 友達に見られた。
3. 同僚に見下された。
4. 同僚に尊敬された。
5. 両親に世話をされた。
6. 両親に世話をされた。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

群動詞は、動詞と前置詞がくっついている形。

群動詞は、カタマリで受け身の形になる。

【laugh at、look at、look down on、look up to、look after、take care of】

前置詞の後にby「～によって」が続くので、気持ち悪い形になるが、これで問題ない。

使役動詞

動詞＋人＋do

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I made my son stay home.
2. I had my son stay home.
3. I let my son stay home.

■ 訳（参考程度に。）

1. 息子を家にいさせた。
2. 息子に家にいてもらった。
3. 息子に家にいさせてあげた。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

「人に～をさせる」という意味をもつ動詞を使役動詞と言う。
代表は、make, have, let。

これらは [make/have/let＋人＋do（動詞の原形）] の形になる。

意味の違いは次のとおり。

- ・ make：無理やりさせる
- ・ have：makeより弱め（日本語だと「させる」or「してもらう」）
- ・ let：させてあげる

動詞＋人＋to do

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I wanted him to come.
2. I told him to come.
3. I asked him to come.
4. I got him to come.

■ 訳（参考程度に。）

1. 彼に来てほしかった。
2. 彼に来るように言った。
3. 彼に来るように頼んだ。
4. 彼を来させた。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

make, have, letは使役動詞として〔動詞＋人＋do〕の形だった。

一方、want, tell, ask, getは、〔動詞＋人＋to do〕の形になる。
to⇒の方向に向かう・向かわせる「～させる」というイメージ。

これらは、厳密には使役動詞とは言わないが、「人に何かをさせる/してもらう」という似た意味になる。

動詞＋人＋to do 2

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. My mom forced me to eat a lot.
2. My mom requested me to eat a lot.
My mom required me to eat a lot.
3. My mom advised me to eat a lot.
My mom encouraged me to eat a lot.
4. My mom allowed me to eat a lot.
My mom permitted me to eat a lot.

■ 訳（参考程度に。）

1. 母は私にたくさん食べることを強要した。
2. 母は私にたくさん食べることを要求した。
3. 母は私にたくさん食べることを助言した。
4. 母は私にたくさん食べることを許可した。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

want, ask, tell, getだけではなく、

「やれ！」というイメージを持つ動詞”force, require, request, advise, encourage, permit, allow”も [動詞＋人＋to do] の形になる。

例文2、requestは人をお願いしている主観。

requireは自分が必要だという客観。どちらも大まかに「要求する」でOK。

例文3、adviseは忠告、encourageはオススメ。

どちらも大まかに「勧める」でOK。

例文4、allowはカジュアルな「許す」、permitは固い「許可する」。

細かい違いは気にせず、まずはどちらでも言えるようにすればOK。

知覚動詞

知覚動詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I saw him cross the street.
2. I saw him crossing the street.
3. I heard her sing.
4. I heard her singing.
5. I heard my name called.

■ 訳（参考程度に。）

1. 彼が道を渡るのを見た。
2. 彼が道を渡っているところを見た。
3. 彼女が歌うのを聞いた。
4. 彼女が歌っているところを聞いた。
5. 名前が呼ばれるのを聞いた。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

see, hear, feel, smellなど【見る・聴く・触る】などの感覚に関する動詞を知覚動詞という。

知覚動詞は「動詞＋人＋do/-ing/過去分詞」の3パターンの形を作る。

例文1と2の違いは、-ingになると「～しているところ」と途中のイメージができる。

例文5のように、過去分詞になると「～される」という受け身の場合に使う。

息抜きコラム 2

巷には英語の勉強法がたくさん溢れていますよね。「これだけで1ヶ月でTOEICが○点上がる!」「1日5分で英語がペラペラになる方法!」「聞き流すだけで英語脳が身につく!」などなど。私も魅力的でキャッチーなタイトルに惹かれてしまいます。しかし、この通りに勉強をしても、決して大きな効果は期待できません。

ジョバンニの失敗談

かく言う私も、某聞き流す有名教材を1年間以上使ったことがあります。英語学習を始めたばかりの頃でした。大好きな音楽を我慢して、通勤中はひたすら聞き流し。料理をしている時も、掃除をしている時も、ひたすら聞き流し…。

結果、効果はほとんどありませんでした。もし、その時間を違う勉強法に費やしていたら、私の1年間は無駄にはならなかったでしょう。まさに、キャッチーなタイトルに惹かれたせいで、頑張っているのに効果が感じられない状態でした。今でこそわかりますが、聞いているだけで口を動かさずに話せるようにはなりません。

勉強法を勉強しないと危ない

私自身の経験と、これまでに多くの英語学習者の悩みを聞いてきた結果から言うと、「英語を勉強しながら、英語の勉強法も勉強しないと、時間も労力も無駄にしてしまう。」ということです。

例えば、英語を話せるようになりたいのに、TOEICの勉強法をしても、それは大きな遠回りになってしまいます。勉強の頻度は、週1回の4時間するよりも、毎日30分の方がはるかに記憶に定着します。単語学習は無限にあります。発音は学習量が極端に少ないので、発音を先に勉強した方が効率的です。

これはほんの一部ですが、実は勉強法を勉強した方は皆知っています。ぜひ、大切な時間を無駄にしないように、英語の勉強法も勉強してください。手前味噌ですが私ジョバンニもオンライン英会話スクールで勉強法を教えていますので、興味のある方はご連絡ください。(Twitter ID【@eigomeister】)

不定詞

名詞的用法

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. My dream is to be a teacher.
2. My hobby is to collect stamps.
3. I like to play tennis.

■ 訳（参考程度に。）

1. 夢は先生になること。
2. 趣味は切手を集めること。
3. テニスをすることが好き。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

to不定詞は、[to+動詞] の原形のこと。

名詞的用法の訳は「～すること」。

It to... 構文 (for)

■ 例文 (10回音読！見ないで言えるように！)

1. It's good to exercise.
2. It's good for you to exercise.
3. It's important for you to exercise.

■ 訳 (参考程度に。)

1. 運動することは良いよ。
2. 運動することはあなたにとって良いよ。
3. 運動することはあなたにとって重要だよ。

■ 解説 (理解したら、また例文を確認。)

to不定詞は主語に来ない。

例えば、To exercise is good. 「運動することは良いよ。」文法的に間違いではないが、会話では不自然。

It's good 「それは良いことだよ」と最初に言う。

そのあとに、to exercise. 「運動することはね。」という語順が自然。

for 人で「～にとっては」という相手を付け加えられる。

It to...構文 (of)

■ 例文 (10回音読! 見ないで言えるように!)

1. It's kind of you to help me.
2. It's nice of you to help me
3. It's clever of you to help me.
4. It's stupid of you to do such a thing.
5. It's rude of you to do such a thing.
6. It's careless of you to do such a thing.

■ 訳 (参考程度に。)

1. 助けてくれるなんてあなたは優しいね。
2. 助けてくれるなんてあなたは良いね。
3. 助けてくれるなんてあなたは賢いね。
4. そんなことをするなんてあなたはバカだね。
5. そんなことをするなんてあなたは失礼だね。
6. そんなことをするなんてあなたは不注意だね。

■ 解説 (理解したら、また例文を確認。)

人の性質 (優しい、賢い、バカなど) のときは、forじゃなくてofになる。

forかofか見分けるポイントは、forは「～にとって」、ofは「～は」という訳。

ただ、ofの場合の単語は限られているので、例文を全部覚えればOK.

形容詞的用法

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I have so many things to do.
2. I have time to see you.
3. I don't have anything to buy.
4. Would you like something to drink?

■ 訳（参考程度に。）

1. やるべきことがたくさんある。
2. あなたに会う時間がある。
3. 買いたい物がない。
4. 飲み物はいかがですか。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

to不定詞は、直前の名詞を修飾することができる。これを形容詞的用法と言う。
訳は「～のための・～すべき」。

例1だと、「たくさん物事がある。（どんなものかと言うと）やるべきことが。」と、
あとからto doを付け足して文を作る。

例4は定番の表現だが、「何かありますか？飲みたいもの。」とやはりあとからto doで
付け足しているイメージ。

副詞的用法：基本

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I went to London to see her.
2. I went to London in order to see her.
3. To see her, I went to London.
4. In order to see her, I went to London.

■ 訳（参考程度に。）

1. ロンドンに行った、彼女に会うために。
2. ロンドンに行った、彼女に会うために。
3. 彼女に会うために、ロンドンに行った。
4. 彼女に会うために、ロンドンに行った。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

副詞的用法は、動詞を修飾して「～のために」と訳す。

「ロンドンに行った。（なぜかと言うと）彼女に会うために。」とto doで理由を付け足すイメージ。

in order toで言い換えることもできる。

in order toは会話ではあまり使われないが、文章でよく使われる。

例3,4のように、順番を入れ替えて、最初にto「～のために」とすることもできる。

副詞的用法：感情の原因

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'm happy to meet you.
2. I'm glad to meet you.
3. I'm pleased to meet you.
4. I was surprised to see him.
5. I was excited to see him.

■ 訳（参考程度に。）

1. あなたに会えて嬉しい。
2. あなたに会えて嬉しい。
3. あなたに会えて嬉しい。
4. あなたに会えて驚いた。
5. あなたに会えて興奮した。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

副詞的用法は、動詞だけではなく、形容詞も修飾する。
形容詞を修飾する時は、感情の原因を説明するように使う。

例1だと、I'm happy 「嬉しいよ。」なぜかという、to meet you 「あなたに会えたから」という流れ。

例1-3の違いは、gladは「ほっとした」、pleasedは丁寧な表現という多少の違いはあるが、まずは全部同じと思ってOK。違いを覚えるよりも例文を使えるようにすることを優先する。

too...to構文

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. The car is too expensive to buy.
2. This coffee is too hot to drink.
3. I'm too tired to study.

4. The car is so expensive that I can't buy it.
5. This coffee is so hot that I can't drink it.
6. I'm so tired that I can't study.

■ 訳（参考程度に。）

1. その車は高すぎて買えない。
2. このコーヒーは熱すぎて飲めない。
3. 疲れすぎて勉強できない。

4. その車は高すぎて買えない。
5. このコーヒーは熱すぎて飲めない。
6. 疲れすぎて勉強できない。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

too「～すぎる」に、toを加えると「～すぎて...できない」となる。
これをtoo...to構文という。

too... to構文は、so...that構文に変えられる。

so...that構文は、so「とても～」、that「なので～」という流れ。
thatのあとは、文章になる。

タフ構文

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. He is difficult to please.
2. He is easy to please.
3. He is hard to talk to.
4. He is tough to talk to.
5. The problem is easy to solve.

■ 訳（参考程度に。）

1. 彼を喜ばせるのは難しい。
2. 彼を喜ばせるのは簡単だ。
3. 彼に話しかけにくい。
4. 彼に話しかけにくい。
5. この問題を解くのは簡単だ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文1、Heが主語なのに、「彼を」となっていることに違和感を感じる。

元の形は、It's difficult to please him. 「彼を喜ばせるのは難しい。」

このように、It'sのあとがdifficult, easy, hardなどの難易・快不快の形容詞のときは、最後の目的語（him）を前に持ってくるができる。

不定詞と動名詞

不定詞の復習

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I want to pass the test.
2. I hoped to pass the test.
3. I'm planning to pass the test.
4. I've promised to pass the test.
5. I've decided to pass the test.

■ 訳（参考程度に。）

1. テストに受かりたい。
2. テストに受かることを望んだ。
3. テストに受かることを計画している。
4. テストに受かることを約束していた。
5. テストに受かることを決めていた。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

to不定詞は、[to+動詞の原形] だった。

例文はすべて名詞的用法。

to不定詞を後ろに置く動詞は決まっている。

例えば、want, hope, decide, promise, planなど。

これらは、「これからすること」をイメージしている動詞。

次に説明する動名詞-ingも「～すること」と訳す。

動名詞：すでに行っている系

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I quit smoking.
2. I gave up smoking.
3. I finished smoking.
4. I stopped smoking.

■ 訳（参考程度に。）

1. タバコを吸うのを辞めた。
2. タバコを吸うのを諦めた。
3. タバコを吸い終わった。
4. タバコを吸うのを止めた。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

quit, give up, finish, stopのあとに続く動詞は-ingの形になる。訳は「～すること」。
この形を動名詞という。

動詞「～する」にingをつけて、名詞「～すること」に変えるから動名詞という。

動名詞-ingを後ろに置く動詞はたくさんあるため、パターン（○○系）でまとめて覚えるといい。

本ページは「すでに行っている」系。

※to不定詞との違い

want「～したい」など、【これからすること】の動詞は、want to...になる。want -ingにはならない。

quit「～をやめる」など、【すでに行っている系】の動詞はquit -ingになる。quit to...にはならない。

動名詞：延期・ネガティブ系

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. We postponed holding the meeting.
2. We put off holding the meeting.
3. We delayed holding the meeting.
4. I avoided talking to him.
5. I missed talking to him.
6. I denied cheating on the test.
7. I admitted cheating on the test.

■ 訳（参考程度に。）

1. 我々は延期した、会議を開くことを。
2. 我々は延期した、会議を開くことを。
3. 我々は遅らせた、会議を開くことを
4. 私は避けた、彼と話すことを。
5. 私は逃した、彼と話すことを。
6. 私は否定した、テストをカンニングしたことを。
7. 私は否定した、テストをカンニングしたことを。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

- ・ postpone, put off, delayの後ろは-ingになる。（延期系）
- ・ miss, deny, admitの後ろも-ingになる。（ネガティブ系）

例文5、missは「～を逃す。」「～がいなくて寂しい。」という意味。

※「～すること」という文章を作るときに、to不定詞なのか動名詞-ingなのか迷うことが多い。しかし、動名詞-ingを後ろに置く動詞は限られているので、例文を覚えておけば迷うことはなくなる。

動名詞：動き・イメージ系

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I enjoy playing tennis.
2. I practice playing tennis.
3. I considered feeding the dog.
4. Do you mind feeding the dog?
5. I imagined feeding the dog.

■ 訳（参考程度に。）

1. テニスをすることを楽しむ。
2. テニスをする練習をする。
3. 犬に餌やりを検討した。
4. 犬に餌やりをしてくれない？
5. 犬に餌やりを想像した。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

- ・ enjoy, practiceは後ろに動名詞-ingを置く。（動きがある系）
- ・ consider, mind, imagineも後ろに動名詞-ingを置く。（頭の中にイメージする系）

以上、動名詞をパターン別に「～系」ではまとめた。

例文を覚えておけば、to不定詞か動名詞-ingか悩むことはなくなるため、例文ごと口癖にすること。

不定詞と動名詞の注意1

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Playing the guitar is fun.
2. It's fun to play the guitar.
3. My hobby is playing the guitar.
4. My hobby is to play the guitar.

■ 訳（参考程度に。）

1. ギターを弾くことは楽しいです。
2. ギターを弾くことは楽しいです。
3. 私の趣味はギターを弾くことです。
4. 私の趣味はギターを弾くことです。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例1のように、「～することは」という主語を作る時に、動名詞-ingが主語になるのはOK.

To play the guitar is fun.というように、to不定詞が主語になるのは、固すぎる表現なので、普通は使わない。例2のように、itを使って表現する。

例3,4のように、補語（be動詞のあと）に置く場合は、動名詞-ingでもto不定詞でもOK.

不定詞と動名詞の注意2

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I forgot to lock the door.
2. I forgot locking the door.
3. I remember to lock the door.
4. I remember locking the door.

■ 訳（参考程度に。）

1. カギをかけ忘れた。
2. カギをかけたかどうか忘れた。
3. カギをかけることを覚えている。
4. カギをかけたことを覚えている。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

to不定詞を後ろに置く動詞、動名詞-ingを後ろに置く動詞は基本的には決まっている。ただし、例文のように、to不定詞も動名詞-ingも後ろに置くことができる動詞がある。

to不定詞はこれからすること。動名詞-ingはすでにしたこと。
このイメージを持って例文を読むと、その違いがわかりやすい。

- ・ forget to ～することを忘れる
- ・ forget -ing ～したことを忘れる

- ・ remember to ～することを覚えている
- ・ remember -ing ～したことを覚えている

to doingの形

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'm used to studying.
2. I got used to studying.
3. I'm looking forward to studying.
4. I object to studying.
5. What do you say to studying?

■ 訳（参考程度に。）

1. 勉強することに慣れている。
2. 勉強することに慣れた。
3. 勉強することを楽しみにしている。
4. 勉強することに反対する。
5. 勉強するなんてどう？

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

to不定詞ではなく、前置詞としてtoを使う場合、後ろに名詞（-ing）をとる。
例文はtoを前置詞として使っている場合。

要は名詞を後ろに置くので、"-ing"を"it"に置き換えて覚えてもOK.

例1だと、I'm used to it. 「それに慣れている。」など。

分詞

分詞の基本

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. There is a barking dog.
2. There is a dog barking at the tree.
3. I saw a scolded boy.
4. I saw a boy scolded by his father.

■ 訳（参考程度に。）

1. 吠えている犬がいる。
2. 木に吠えている犬がいる。
3. 叱られている少年を見た。
4. 父親に叱られている少年を見た。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

分詞＝動詞の形をしているが、形容詞の働きをする単語。

※ 形容詞は、名詞を説明する単語。

例文1,2はbarkingが分詞。

-ingは「～している」と訳す。

例文3,4はscolded

-edは「～された」と訳す。

barking dogのように、名詞（dog）を1語で説明する場合は、-ingを前に置く。

dog barking at the treeのように、2語以上で説明する場合は、後ろから説明する。

感情分詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I was surprised at that.
2. I was shocked at that.
3. I was interested in that.
4. I was annoyed by that.
5. I was tired from that.
6. I was tired of that.

■ 訳（参考程度に。）

1. それに驚いた。
2. それに衝撃を受けた。
3. それに興味を持った。
4. それに苛ついた。
5. それが原因で疲れた。
6. それにうんざりした。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

感情を表す動詞は-ingにしないように注意。

感情は外から動かされるものなので、受け身（be動詞+ed）の形になる。

どの前置詞（at, in, byなど）がつくのか、覚え方のポイントは、感情の期間が短いもの surprised, shocked, excitedはatがつく。あとは丸ごと覚えた方が早い。

※tired from, tired ofの訳の違いに注意。

付帯状況 -ing

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I cooked, listening to music.
2. I watched a movie, eating a snack.
3. I left my home, calling my friend.

■ 訳（参考程度に。）

1. 料理をしたよ、音楽を聴きながら。
2. 映画を見たよ、お菓子を食べながら。
3. 家を出発したよ、友達に電話しながら。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

動詞のingを付け足すことによって、「～しながら」と付け足すことができる。
これを付帯状況という。

付帯状況のwith

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I was sitting with my arms crossed.
2. I was sitting with my legs crossed.
3. I was sitting with my eyes closed.

■ 訳（参考程度に。）

1. 腕を組んで座っていた。
2. 足を組んで座っていた。
3. 目を閉じて座っていた。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

付帯状況は-ingだけではなく、withを使うこともできる。

[with＋名詞＋...] で付け足す形。

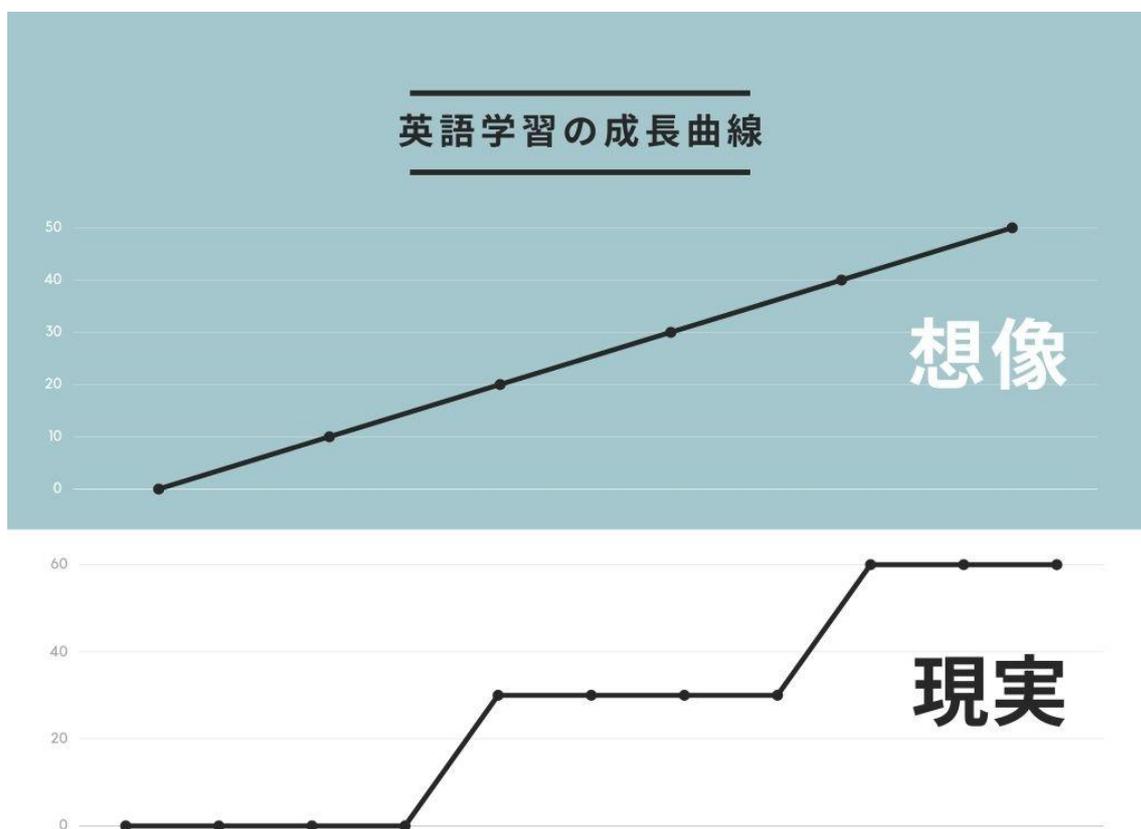
訳は「～しながら」「～したままで」。

息抜きコラム 3

突然ですが、「勉強をしても効果が感じられない」という方に朗報です。英語の効果は突然現れます。まず、効果が感じられない理由は2つ考えられます。1つは「息抜きコラム2」で話したように、そもそも勉強法が間違っているパターンです。もう1つは、ただ量が足りていないというパターンです。

ブレイクスルーは突然に

次の「英語学習の成長曲線」の図を見てください。



上の図が、みなさんが想像している成長度合いです。しかし、現実はこの図のように、停滞している時期があって、それを乗り越えた時に、ポンッと成長を感じられます。これをブレイクスルーと言います。

長年英語学習をしている人は、このブレイクスルーの瞬間があることを知っているからこそ、成長を感じられない期間でも、黙々と勉強を続けることができます。

ちなみに、私がブレイクスルーを感じた勉強法は次のとおりです。

- ・ オンライン英会話
- ・ 英単語カード暗記法
- ・ シャドーイングとオーバーラッピング
- ・ 英語を教える勉強法 など

ポイントとしては、これらの勉強法をしてすぐに成長を感じたわけではなく、ひたすら一つの勉強法に注力することで、数カ月後にブレイクスルーが起きました。

諦めたらそこで試合終了です。

そのため、私がみなさんにお伝えしたいことは、「絶対に諦めないください！」という事です。英語ほど、努力が報われやすいものはありません。やればやるだけ上達するのが英語です。

成長速度や、目標達成までの道のりが人それぞれなので、他人と比べて「自分は全然成長していない。」「こんなに頑張っているのに。」と誤ってしまいます。比べるべきは昨日の自分です。昨日の自分と比べて、少しでも成長していれば大丈夫です。あなたは前に進んでいます。

筆者の私自身、一緒に英語学習を始めた友人が、たった1年でTOEIC800点を取った時に、劣等感を感じ、ひどく自己嫌悪していた時期がありました。また、勉強法を勉強していなかった（息抜きコラム2参照）ために、全然勉強の効果が感じられずに、思い悩んでいた時期もありました。

そんな私でも、諦めずに勉強を続けていたら、英語講師になれました。いろんなアドバイスをさせていただきましたが、究極のところ、諦めなければなんとかなります。「成功するまで続ければ失敗はしない。」とよく言いますが、英語もまさにその通りです。私も全力でサポートします。一緒に頑張りましょう！

関係代名詞

関係代名詞：主格・目的格

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. There is a man who is a foreigner.
2. I have a book which is famous.
3. There is a man who I don't know.
4. I have a book which I bought yesterday.

■ 訳（参考程度に。）

1. 男がいるよ、その人は外国人だよ。
2. 本を持ってるよ、その本は有名だよ。
3. 男がいるよ、その人を私は知らないよ。
4. 本を持ってるよ、その本を私は昨日買ったよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

関係代名詞は、whoやwhichなどで2つの文をつなげて、前の名詞を説明する。

例1では、manがどんな人なのかを、who以下で説明している。

人の場合はwho、人以外はwhich。thatはどちらにも使える。

「どんな人か」というと、「どんな物か」というとと後ろにつなげる感覚を持つといい。

例文1,2は主格といい、関係代名詞が主語の役割をする。

whoやwhichを「その人は」「その本は」と訳すと、2文を繋げやすい。

例文3,4は目的格といい、関係代名詞が目的語「～を」の役割をする。

whoやwhichを「その人を」「その本を」と訳すと、2文を繋げやすい。

関係代名詞：所有格

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. There is a man whose name is Luis.
2. I have a book whose author is famous.

■ 訳（参考程度に。）

1. 男がいる、その人の名前はルイスだよ。
2. 本を持ってるよ、その本の著者は有名だよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

関係代名詞はwhoseを使うと「～の」（his, her, my, its）の役割をする。
これを所有格の関係代名詞という。

関係代名詞：what

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. What I want is a new PC.
2. That's exactly what I wanted.
3. I don't know what you like.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私がほしいものは新しいパソコンです。
2. それはまさに私が欲しかったものだ。
3. あなたが好きなものがわからない。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

関係代名詞whatは「～なもの/こと」という訳で、名詞の役割をする。

そのため、名詞がおける場所＝主語・目的語・補語における。

- ・例文1は主語「～なものは」
- ・例文2は補語「～なものだ。」
- ・例文3は目的語「～なものを」

whoやwhichなどの関係代名詞と違い、前の名詞を説明するわけではない。

関係副詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. That was the city where I went.
2. I remember the day when we first met.
3. I don't know the reason why he doesn't come.

■ 訳（参考程度に。）

1. それが街だよ、私が行ったね。
2. 覚えているよ、私たちが初めて会った日を。
3. 私は知らない、彼が来ない理由を。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

関係副詞はwhere, when, whyがある。

関係副詞も関係代名詞と同じように、形容詞の働きをして前の名詞を説明する。

例1のように、場所を説明する時はwhere

例2のように、時間はwhen

例3のように、理由はwhyを使って、詳しく説明を加えるイメージ。

※関係副詞は、前の名詞を省略できる。

例1だと、That was where I went. 「それが場所です、私が行ったね。」

間接疑問文と関係代名詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I don't know who did it.
2. I don't know which is better.
3. I don't know which I should choose.
4. I don't know what happened.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私は知らない、誰がそれをしたか。
2. 私は知らない、どちらの方がいいか。
3. 私は知らない、どららを私が選ぶべきか。
4. 私は知らない、何が起きたか。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

文の途中でwhoやwhichが出てきた時は、全てが関係代名詞というわけではない。関係代名詞の場合は「どんな人（物）か」といういと～」と後ろに説明を付け足すイメージだった。

しかし、前に説明する名詞がなく、whoやwhichが文の途中にある場合は、間接疑問文という形になる。

間接疑問文は「誰が」「どちらが」という疑問文をつけ加えるイメージ。

knowとセットになることが多いので、例文ごと暗記すること。

※ whatの場合は、関係代名詞whatも説明の付け足しではなかった。そのため、whatの場合は、間接疑問文「何が」でも、関係代名詞「～なこと」と訳してもOK. 例文4だと「私は知らない、起こったことを。」という訳になる。

間接疑問文と関係副詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I asked where he went.
2. I asked when he came.
3. I asked why he didn't come.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私は尋ねた、どこに彼が行ったか。
2. 私は尋ねた、いつ彼が来たのか。
3. 私は尋ねた、なぜ彼が来なかったのか。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文1～3は、関節疑問文でも関係副詞でもOK.

関係副詞は「いつ・どこで・なぜ」という説明を付け足す形だった。

そして、関係副詞は先行詞を省略できた。

例えば、the placeやthe timeなど。そのため、間接疑問文と同じ形になる。

例文1、I asked (the place) where he went. 「私は尋ねた。彼が行った場所を。」という関係副詞の訳で考えてもOK.

複合関係代名詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Whoever comes, I'll welcome.
2. Whichever you buy, I'll pay.
3. Whatever happens, I'm on your side.

■ 訳（参考程度に。）

1. 誰が来ても、私は歓迎するよ。
2. どれをあなたが買っても、私が支払うよ。
3. 何が起きても、私はあなたの味方だよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

複合関係代名詞＝whoever, whichever, whateverのこと。

- ・ whoever 「誰が～でも」
- ・ whichever 「どれが～でも」
- ・ whatever 「何が～でも」。

※関係代名詞や関係副詞は、前の名詞を「それはね～」と、説明を付け足す形だった。一方、複合関係代名詞は、前に名詞を置く必要がない。

複合関係副詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Wherever you go, I'll follow you.
2. Whenever you're happy, I'm happy.
3. However hard I try, I can't do it.

■ 訳（参考程度に。）

1. どこにあなたが行っても、私はついて行くよ。
2. あなたが幸せな時はいつでも、私は幸せだよ。
3. どんなに一生懸命やっても、それができない。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

複合関係副詞＝wherever, whenever, howeverのこと。

- ・ wherever 「どこで～でも」
- ・ whenever 「いつ～でも」
- ・ however 「どんなに～でも」

※ howeverは「しかし」という接続詞の意味もある。

同格のthat

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I heard the news that it'll snow tomorrow.
2. I heard the information that it'll snow tomorrow.
3. I have the idea that I will study abroad.
4. I have the belief that I will study abroad.
5. I have some evidence that you cheated on me.
6. I know the fact that you cheated on me.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私は聞きました、明日は雪というニュースを。
2. 私は聞きました、明日は雪という情報を。
3. 私は持っています、留学するという考えを。
4. 私は持っています、留学するという信念を。
5. 私は持っていますあなたが浮気をした証拠を。
6. 私は知っています、あなたが浮気をした事実を。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

直前の名詞を説明するthatを同格のthatという。訳は「～という」。

どんな名詞にも繋げられるわけではないが、分類としては例文1,2のような「情報系」。例文3,4のような「考え系」、例文5,6のような「事実系」がある。

他にもたくさんあるため、全部は覚えられない。

勉強をしていく中で、[名詞+that]が出てきた時に、「あ、同格のthatだ」と思えるようになっておけばOK.

仮定法

仮定法過去

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. If I had enough time, I would study English.
2. If I had a lot of money, I could travel abroad.
3. If I were you, I would be an actor.
4. If I were rich, I could buy it.

■ 訳（参考程度に。）

1. もし、十分な時間があるなら、英語を勉強するのに。
2. もし、たくさんお金があるなら、海外旅行できるのに。
3. もし、私があなたなら、俳優になるのに。
4. もし、私がお金持ちなら、それを買えるのに。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

仮定法は、実際にはあり得ないことを話す（仮定の話をする）時に使う。

★仮定法の作り方

- 1： [If I 過去形～] 「もし～だったら」という形を作る。
- 2： [I would / could～] 「～なのに / ～できるのに」を付け足す。

※ 過去形を使うので「仮定法過去」と言うが、訳を見ればわかるとおり、意味は現在や未来のことになる。

仮定法過去完了

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. If I knew, I could help you.
2. If I had known, I could have helped you.
3. If I studied English, I could speak English.
4. If I had studied English, I could have spoken English.

■ 訳（参考程度に。）

1. もし、知ってるなら、手伝えるのに。
2. もし、知ってたなら、手伝ったのに。
3. もし、英語を勉強するなら、英語を話せるのに。
4. もし、英語を勉強したなら、英語を話せたのに。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文1,3は仮定法過去、例文2,4は仮定法過去完了。

仮定法過去完了は、実際には過去に起きなかったこと。

例2：「知ってたなら、手伝ったのに」←知らなかったから手伝わなかった。

例4：「英語を勉強したなら、話せたのに」←勉強しなかったから話せない。

★仮定法過去完了の作り方

1：[If I had 過去分詞] で、「もし～だったら」という形を作る。

2：[I would/could have 過去分詞] 「～したのに、～できたのに」を付け足す。

※過去分詞＝（変化の3番目）do-did-doneなど。

wishの仮定法

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I wish I could drive.
2. I wish I could have driven at that time.
3. I wish you were here.
4. I wish you had been here at that time.

■ 訳（参考程度に。）

1. 運転できるならなあ。
2. あの時、運転できていたらなあ。
3. 君がここにいればなあ。
4. あの時、君がここにいたらなあ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

Ifを使った仮定法は、「もし～をしていたら」という前置きがあった。

一方、wishを使った仮定法は、前置きがなく「～だったらなあ」という意味になる。

- ・ 例文1,3は仮定法過去（＝現在のこと）。
- ・ 例文2,4は仮定法過去完了（＝過去のこと）。

仮定法現在：動詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. My dad ordered that I be on time.
2. My dad required that I be on time.
3. My dad requested that I be on time.
4. My dad asked that I be on time.
5. My dad advised that I be on time.

■ 訳（参考程度に。）

1. お父さんが命令したんだ、時間通りにしろって。
2. お父さんが要求したんだ、時間通りにしろって。
3. お父さんが要求したんだ、時間通りにしろって。
4. お父さんが依頼したんだ、時間通りにしろって。
5. お父さんがアドバイスしたんだ、時間通りにしろって。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文はすべて「本来ならば、～するべきだ」という意味を持ち、現実ではないことを「やれ」と言っているので、仮定法と言われる。

これらは仮定法現在と言う。

仮定法現在では、命令・要求などの「やれ！」というイメージを持つ動詞 [order, requireなど] のときに、thatの中の動詞が原形になる。

仮定法現在というより、「仮定法原形」と覚えるといい。

※「やれ！」系の動詞は、[動詞+人+to do] の形になるのを覚えているだろうか。例文1だと、My dad ordered me to be on time.に変えることができる。

仮定法現在：形容詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. It is essential that you be here.
2. It is vital that you be here.
3. It is desirable that you be here.
4. It is important that you be here.
5. It is necessary that you be here.

■ 訳（参考程度に。）

1. あなたがここにいることは不可欠だ。
2. あなたがここにいることは不可欠だ。
3. あなたがここにいることは望ましい。
4. あなたがここにいることは重要だ。
5. あなたがここにいることは必要だ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

前項では「やれ」系の意味を持つ動詞ではthat以下の動詞が原形になった。
一方、「やれ」系の意味を持つ形容詞のときも、that以下の動詞が原形になる。

例1だと、

× that you are here.

◎ that you be here.

※ 仮定法現在の形になる動詞・形容詞は例文以外にもたくさんあるが、まずは例文を覚えておく。それ以外の単語に出会った時に、その都度知識を肉付けしていく。

比較

比較

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'm older than you.
2. My phone is newer than yours.
3. I'm more intelligent than you.
4. My phone is more expensive than yours.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私は君より年上だよ。
2. 私の電話は君のより新しいよ。
3. 私は君より頭がいいよ。
4. 私の電話は君のより高価だよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

比較するときには、[-er+than] の形を作る。

例文3,4のように、比較する単語が長いときは、その単語の前にmoreをつける。

※比較は、「形容詞」か「副詞」のみに使える。

形容詞は、"easy, difficult, hot, small, big, high, low, warm" など。日本語では「優しい」「難しい」など、「い」で終わるものが多い、性質を表すもの。

副詞は、"fast（速く）、slowly（遅く）、quietly（静かに）"など、動詞を修飾するもの。

原級比較

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. My dog is as big as your dog.
2. This movie is as popular as that movie.
3. I can sing as well as you.
4. I sleep as long as you.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私の犬はあなたの犬と同じくらいの大きさだよ。
2. この映画はあの映画と同じくらい人気だよ。
3. 私は君と同じくらい上手に歌えるよ。
4. 私は君と同じくらい長く寝るよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

as... asで「～と同じくらい」となる。

- ・例文1,2は形容詞。
- ・例文3,4は副詞。

副詞は付け足しの感覚で作るといい。

例文3なら「歌えるよ。君と同じくらい上手にね。」と後から付け足す感覚。

最上級

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'm the smartest of my coworkers.
2. I'm the smartest in my company.
3. This is the best movie I've ever seen.
4. This is the best present I've ever gotten.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私は一番賢いよ、同僚の中で。
2. 私は一番賢いよ、会社の中で。
3. これは一番の映画だ、今まで見た中で。
4. これは一番のプレゼントだ、今までもらった中で。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

最上級は、[the+-est] の形で「一番～」となる。

- ・ 比べる相手がいる場合は”of～”を付け足す。
- ・ グループの中で一番なら”in～”を付け足す。

例3,4のように、[I have ever 過去分詞] で、「これまでに～した中で」という文にすることもできる。

比較の否定

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. This movie is the most interesting.
2. This movie is more interesting than any other movies.
3. No other movie is more interesting than this movie.

4. My dog is the prettiest.
5. My dog is prettier than any other dogs.
6. No other dog is prettier than my dog.

■ 訳（参考程度に。）

1. この映画は一番おもしろいよ。
2. この映画は他のどの映画よりもおもしろいよ。
3. 他の映画は面白くないよ、この映画よりは。

4. うちの犬が一番かわいいよ。
5. うちの犬は他のどの犬よりもかわいいよ。
6. 他の犬は可愛くないよ、うちの犬よりは。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

最上級の言い方はたくさんある。

代表的な例文を3つ覚える。

例文3,6のように、No other...「他は～ではない」と、最初に否定から入る言い回しは英語っぽい表現。これも言えるようになること。

ラテン比較級

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I'm junior to you.
2. You're senior to me.
3. I'm superior to you.
4. You're inferior to me.
5. I prefer dogs to cats.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私は君より年下だよ。
2. 君は私より年上だね。
3. 私は君より優れているよ。
4. 君は私より劣っているね。
5. 犬のほうが好き、猫より。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

例文の“junior, senior”などはラテン語由来の単語。

ラテン語が由来の単語は”than”ではなく”to”で比較を表す。

代表的な例文だけ覚えておけばOK.

新たなtoで比較する単語に出会った時に、知識の肉付けをしていく。

※ -orがつく単語が多い。

強調構文

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I met the actor in Sapporo yesterday.
2. It was I that met the actor in Sapporo yesterday.
3. It was the actor that I met in Sapporo yesterday.
4. It was in Sapporo that I met the actor yesterday.
5. It was yesterday that I met the actor in Sapporo.

■ 訳（参考程度に。）

1. 私は昨日札幌で俳優に会ったよ。
2. 私だよ、昨日札幌で俳優に会ったのは。
3. 俳優だよ、私が昨日札幌で会ったのは。
4. 札幌だよ、私が昨日俳優に会ったのは。
5. 昨日だよ、私が札幌で俳優に会ったのは。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

強調構文は、[It is A that...] 「Aだよ、～なのは。」と、言いたいことを強調する時に使う。

例文のように、強調したいことを前に出す。

この文を使いこなせるようになると、英語を話す自由度が広がる。

形容詞：数量詞

each ・ every

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Each of the children is special.
2. Each child is special.
3. Every child is special.

■ 訳（参考程度に。）

1. それぞれの子どもが特別だよ。
2. それぞれの子どもが特別だよ。
3. それぞれの子どもが特別だよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

eachは名詞「それぞれ」と、形容詞「それぞれの」の意味がある。

例文1は名詞。

直訳は「子どもたちのそれぞれ」。

子どもたち（複数）から一人ずつを抜き出すイメージなので、is（単数）になる。

例文2は形容詞。

「それぞれの子ども」となる。

一人ずつの子ども（単数）のイメージ。

everyは形容詞にしかならないので、例文3と2は同じ形になる。

all・many

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Many children are there.
2. Many of the children are there.
3. All children are there.
4. All of the children are there.

■ 訳（参考程度に。）

1. 多くの子どもたちが、そこにいるよ。
2. 子どもたちの多くが、そこにいるよ。
3. 全員の子どもたちが、そこにいるよ。
4. 子どもたちの全員が、そこにいるよ。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

manyは名詞「たくさん、多く」と、形容詞「たくさんの、多くの」という意味。
allは名詞「全て」と、形容詞「すべての」という意味。

例文1,3のmany,allは形容詞で使った場合。

例文2,4はmany,allを名詞で使った場合。
ofとtheはセットで覚えること。

most ・ almost

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Most children are happy.
2. Most of the children are happy.
3. Almost all children are happy.
4. Almost all of the children are happy.

■ 訳（参考程度に。）

1. ほとんどの子どもたちが、幸せです。
2. 子どもたちのほとんどが、幸せです。
3. ほぼ全員の子供たちが、幸せです。
4. 子どもたちのほぼ全員が、幸せです。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

mostは名詞「ほとんど」と、形容詞「ほとんどの」の意味がある。

almostは形容詞「ほとんどの」という意味のみ。

almost allをセットで「ほぼ全て」と覚えるといい。

名詞

不可算名詞：基本

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I want some money.
2. I want some furniture.
3. I want some bread.
4. I want some coffee.
5. I want some sugar.

■ 訳（参考程度に。）

1. お金がほしい。
2. 家具がほしい。
3. 食パンがほしい。
4. コーヒーがほしい。
5. 砂糖がほしい。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

数えられない名詞は、前にa、two、threeなどの数が見つからない。また、その名詞にsが見つからない。（× moneys）

例1：お札やコインは数えられるが、お金という概念は数えられない。

例2：机や椅子は数えられるが、家具という総称は数えられない。

例3：食パンのように、原形がはっきりしておらず、切っても機能が損なわれないものは数えられない。

例4,5：コーヒーや水などの水分、砂糖などの細かすぎるものも数えられない。

不加算名詞：情報系

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I have some advice.
2. I have some information.
3. I have some news.
4. I have some proof.
5. I have some evidence.
6. I have some knowledge.

■ 訳（参考程度に。）

1. いくつかアドバイスがあります。
2. いくつか情報があります。
3. いくつかお知らせがあります。
4. いくつか証拠があります。
5. いくつか証拠があります。
6. いくつか知識があります。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

「情報系」の名詞は、数えられそう（「1つのアドバイス」など）だが、英語では数えられないので注意。

例4は、「news」とsがついてるが、複数形ではない。

※不可算名詞は”a”や”two”がつかない代わりに、someをつけることが多い。

不可算名詞の注意

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. I have some work.
That's a great work.
2. I have some homework.
I have an assignment.
3. I want some paper.
I want a paper.
4. I want some milk.
I want a milk.

■ 訳（参考程度に。）

1. 仕事があります。
あの作品はすばらしい。
2. 宿題があります。
課題があります。
3. 紙がほしい。
新聞がほしい。
4. ミルクがほしい。
ミルクが一杯ほしい。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

同じ単語でも、意味によっては数えられることがある。

例1：「作品」は数えられる。

例2：assignments「課題」は数えられる。

例3：「新聞」は数えられる。また、paperは「論文」という意味にもなる。

例4：容器に入っているミルクは数えられる。

複数名詞

■ 例文（10回音読！見ないで言えるように！）

1. Many people are there.
Many peoples live in Africa.
2. Many police are there.
Many police officers are there.
3. Many staff are in this restaurant.
Many staff members are in this restaurant.

■ 訳（参考程度に。）

1. たくさんの人がそこにいる。
たくさん民族がアフリカに住んでいる。
2. たくさん警察がそこにいる。
たくさん警察官がそこにいる。
3. たくさんスタッフがこのレストランにいる。
たくさんスタッフたちがこのレストランにいる。

■ 解説（理解したら、また例文を確認。）

“s”をつけなくても、最初から複数の意味を持つ名詞がある。
これを複数名詞という。

例1：“people”は複数名詞なので、“s”がつかない。「民族」の意味では、“a”や“s”がつく。

例2：“police”は複数名詞。police officerにすると、“a”や“s”がつく。

例3：“staff”は複数名詞。“staff member”にすると、“a”や“s”がつく。

おわりに

私は学生時代、英語が好きでした。しかし、社会人になって久しぶりに英語を勉強したのですが「英語の勉強」はできたものの、英語がまったく話せるようにはなりませんでした。「英会話の練習」をしなかったからです。

そこで、当時英会話のレッスンをしてくれていた講師に相談したところ「文法なんて覚えなくていい」と言われました。それから数ヶ月、ひたすらフレーズを丸暗記する日々が始まりました。すると驚くことに、一気に英語が口から出てくるようになったのです。

しかし、「なんでこんな文の形になるんだろう?」「このフレーズって応用できないのかな?」という疑問が沸いてきました。さらに、一時的にフレーズは覚えられたものの、理解をしていないので忘れるのも早かったです。

そこで私は気づきました。丸暗記はダメ。理解だけでもダメ。「暗記×理解」で会話で使える英語が身につくのだと。

本書は、一生懸命勉強をしているのに英語を話せなかった私が、「暗記×理解」の数式を作って、英語が話せるようになったメソッドを詰め込みました。一人でも多くの英語学習者の方が、本書の練習法を実践し、悩みが解決されることを切に願っています。最後まで読んでいただきまして、ありがとうございました。

※本書に関するご意見・ご感想はTwitter ID【@eigomeister】までお願いします。Twitterでは、英語初心者がすぐに使える知識から、ジョバンニの活動内容（オンライン英会話レッスン・Podcast配信・英会話上達ブログ）まで発信しています。みなさんとお話できることを楽しみにしています。